

制度の狭間にいる人を支えるために ～CSWと住民がつくるしくみ

平野ひろみ

3月18日、生活者ネットの会派視察で豊中市社会福祉協議会を訪問しました。大阪府では、中学校区圏域に地域福祉推進のコーディネーター役であるコミュニティソーシャルワーカー(CSW)が配置されています。豊中市では、市と社協が協働で校区単位に「福祉なんでも相談窓口」を設置。民生・児童委員や研修を受けたボランティアが集会所などで身近な福祉相談を行い、近所の気になる人をつなぐ、SOSをキャッチする窓口になっています。ゴミ屋敷で生活するひとり暮らしの高齢者への支援や、DVや多重債務の問題など住民だけで解決できない課題については、担当CSWが住民と一緒にかかわっています。地域課題を自分たちの問題として受け止め解決できるしくみを創りだす、CSWはネットワークだけでなくフットワークとあきらめない心をもった達人だと実感しました。

豊中市社会福祉協議会の勝部さん(CSW)(写真中央)から地域福祉の取組について熱いお話を伺う



子ども模擬議会に参加

～自分の意見をしっかり持つ小学生に感動！

日向みさ子

3月29日、小平青年会議所主催の「広げよう人生の幅！知ろう色々な職業！」というイベントがあり、議員というカテゴリーでほかの市議たちと一緒に参加しました。J C村にドリームランドをつくるという架空の提案で模擬議会を開催。小学生たちからは「目的は？」「入場料や来場者見込みは妥当？」「家や環境を破壊しないの？」「本当に子どもたちに必要な施設ばかり？」「私たちも計画に参加できるの？」など鋭い質問が続出しました。

採決の結果はなんと否決！それでも、「検討中のことが多かったので、これから話し合いの場をつくって決めていけばいい」という前向きな意見も出て、感心することしきりでした。みんな自分の考えをしっかりとっていて、日本の未来は明るいと感じました。市議会もがんばらねばと思います。



子どもたちはグループに分かれ、そこに議員が入ってアドバイス

多様性あふれる社会の実現をめざす ～淀川区役所のLGBT支援のとりくみ

岩本ひろ子

3月に視察した大阪市淀川区は、自治体初のLGBT(性的少数者)支援宣言を行ったまちです。きっかけは民間人から区長となった榊正文さんが、ゲイであることを公表している大阪・神戸米国総領事パトリック・ジョセフ・リネハンさんと出会ったこと。ここで初めてLGBTという言葉を知り、LGBTに優しいまちをめざし、市民向けのトークセッションや全職員対象の研修、相談事業などを始めました。区の画期的な取り組みは、情報不足による偏見、無理解で苦しむ多くの当事者や家族に希望を与え、内外か

らも大きな反響があったとのこと。

多様な人たちがいきいきと暮らせるまちは、だれにとっても暮らしやすいまち。淀川区の取り組みに拍手を送るとともに、人口の5%の割合で存在するというLGBTについて、小平市でも職員研修を行うことや、人権教育として子どもたちに正しい知識を伝えることが必要と感じました。



区役所玄関にはセクシャルマイノリティの「LGBT」の人たちの尊厳とその活動を象徴する「レインボーフラッグ」が掲げられています